NAGOYA CITY UNIVERSITY 高等教育院通信 2026.11 Vol.29

第20回 教育改革フォーラムを開催しました

開催報告

2026年9月17日（木）、滝子キャンパス教室およびオンラインにて、「認証評価を見据えた学習成果の可視化―学位プログラムにおける学習評価のあり方― 」をテーマとした教育改革フォーラムを実施しました。

当日は、対面・オンライン合わせて119名の方にご参加いただき、アンケートでは約9割の方が、フォーラムについて「参考になった」と回答するなど、参加者の学びが深まる有意義な時間となりました。

参加者数　119名
（対面61名・オンライン58名）



◆参加者の内訳

区分	対面	オンライン
職員	22名	10名
教員	34名	33名
他大学	5名	15名

第20回 教育改革フォーラムを終えて

松尾　美香 准教授

2030年度から導入予定の「新たな大学認証評価」では、従来の大学全体を中心とした評価から、学部・学科等の学位プログラム単位で教育成果を捉える評価へと、大きく転換することが想定されています。各大学には、学生が実際に何を学び、どのような力を身につけたのかを、教育の成果として示すことが、これまで以上に求められます。

今回のフォーラムでは、教育方法学、特に能力論・学習論・評価論を専門とする松下 佳代先生（京都芸術大学）をお招きし、学位プログラムレベルで学習成果をどのように把握し、可視化していくのかについてご講演いただきました。

ご講演では、学生アンケートなど、学生自身の認識を通して学習成果を捉える「間接評価」だけではなく、課題、作品、実演などを通して、学生が実際に何ができるのかを捉える「直接評価」を組み合わせることの重要性が示されました。とりわけ、間接評価を直接評価の代わりに用いるのではなく、それぞれの特徴を理解し、目的に応じて活用する必要があるという指摘は、今後の学習成果の把握を考える上で、重要な示唆を与えるものでした。

また、学位プログラム全体の目標に直結する重要科目に着目し、そこで学生の作品や実演などを評価する「PEPA（重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価）」の考え方も紹介されました。すべての科目に新たな評価を一律に加えるのではなく、学生がそれまでに学んだ知識や技能を統合して発揮する重要科目に評価の機会を絞ることで、プログラム全体の学習成果を捉えながら、実行可能性も確保しようとする方法です。さらに、デジタル・ポートフォリオを活用して学生の学びの証拠や成長の過程を蓄積し、振り返りにつなげる実践や、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標の達成状況を学生自身が振り返るDPA（DP達成度評価）の取組も紹介されました。これらの事例は、教員が学生の学習成果を評価するだけでなく、学生自身を学習評価の主体として位置づけることの大切さを示すものでした。

講演を通して改めて感じたのは、評価は単なる点数化や認証評価への対応ではなく、学生一人ひとりの成長を支援し、その学びをより豊かなものにするための営みであるということです。今後も高等教育院では、「学修者本位の教育」や「Student Success」の視点を大切にしながら、各部局と連携して教育改善・教育改革を推進してまいります。

当日ご参加いただけなかった方にもご覧いただけるよう、講演資料とアーカイブ動画を学内公開しております。ぜひ各学部・学科における授業改善やカリキュラムの検討にお役立てください。

なごや学公開講座　開催報告

2026年7月11日（土曜日）名古屋市教育センター（熱田区）にて、なごや学研究センター主催の第1回公開講座が開催されました。

大原弘隆学長による開会挨拶の後、第1部では、七尾市教育委員会生涯学習文化財課の北林雅康主幹、佐賀県立名護屋城博物館の武谷和彦副館長、石川県金沢城調査研究所の滝川重徳副所長が「城から前田利家を考える」をテーマに、前田利家が各地に築いた城について、ご講演をいただきました。

第2部では、「城から見た前田利家」と題して、千田嘉博教授を進行役、北林主幹、武谷副館長、滝川副所長をパネリストとして、ディスカッションが行われました。

当日は約650名の方々が参加され、参加者からは「とても有意義な時間だった」、「ぜひ現地を訪れてみたい」などの声が寄せられ、講演会は大盛況のうちに終わりました。



日本教育社会学会奨励賞　受賞報告

このたび、高等教育院所属の速水幹也助教が、日本教育社会学会より「日本教育社会学会奨励賞」を受賞しました。

今回受賞した論文は、「専門職の『量』をめぐる政策過程－薬学部はいかにして量的に抑制されるに至ったか？－」（『教育社会学研究』第115集）です。

本論文は、6年制薬学部の新設や定員抑制に関する政策が実現するまでに長い年月を要した要因について、政府機関、大学、薬剤師会などの関係主体に着目し、会議録や報告書等の資料をもとに分析した研究です。その結果、薬剤師養成をめぐる政策形成において政府が中心的な役割を果たしていたことを明らかにし、従来の学説に新たな視点を提示した点が高く評価されました。

また、豊富な資料に基づく丁寧な分析と、専門職団体の役割を批判的に検討した独創性が認められ、学術的に大きな貢献を果たした研究として評価されています。



名古屋市教育委員会との連携事業　実施報告

名古屋市教育委員会との高大連携事業として、今年度も「大学丸ごと研究室体験」（以下「丸ごと研究室体験」）、「NCUグレイド・スキップ・チャレンジ」（以下「GSC」）を実施いたしました。

大学丸ごと研究室体験

丸ごと研究室体験は、高校生の夏季休暇中に大学水準の研究を体験してもらう事を目的に、医学部、薬学部、総合生命理学部の理系講座を名古屋市立の高校生向けに開講しています。

今年度は7月21日～8月18日の期間で22講座を開講し、名古屋市立の高校生が126名参加しました。大学でのレベルの高い学びに苦戦しながらも真剣に取り組む姿が見られました。



NCUグレイド・スキップ・チャレンジ

GSCは「4日間高校から大学に飛び級して、大学水準の調査・研究活動を体験する」という目的のもと、人文社会学部、経済学部、芸術工学部、データサイエンス学部、医学部保健医療学科（看護学専攻、リハビリテーション学専攻）の講座を体験するイベントです。

今年度は8/7にガイダンス、8/17～8/21の期間中で各講座2日間の開講、9/26に合同発表会という日程に名古屋市立の高校生35名が参加しました。

合同発表会では緊張した面持ちながら、発表や質疑応答を行っており、4日間の集大成となりました。



高等教育院通信に関するご意見・ご要望等はこちらまで　⇒　名古屋市立大学教育研究部教務企画課
TEL: (052) 872-5923　Email:k_kikaku@sec.nagoya-cu.ac.jp